

第四部 イスラエル民族：主のぶどう畑

イザヤ5章

□アウトライン

- A) ぶどう畑のたとえ話 5:1~7
- B) 6つの「わざわざ」罪と 4つの「それゆえ」裁き 5:8~25
- C) イスラエルが複数の国々の連合軍に侵略されるという預言 5:26~30

- A) ぶどう畑のたとえ話 5:1~7

1~2節 【イザヤの歌】

「さあ、私は歌おう。わが愛する者のために。そのぶどう畑についての、わが愛の歌を。

➤ わたし→「私」=イザヤ、わが愛する者=主、そのぶどう畑=主のぶどう畑
わが愛する者は、よく肥えた山腹にぶどう畑を持っていた。彼はそこを掘り起こして、石を除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、その中にぶどうの踏み場まで掘り、ぶどうがなるのを心待ちにしていた。
ところが、酸いぶどうができてしまった。

3~6節【主のことば】 ここでは、わたし=主

今、エルサレムの住民とユダの人よ、さあ、わたしとわたしのぶどう畑との間をさばけ。わがぶどう畑になすべきことで、何かわたしがしなかったことがあるか。なぜ、ぶどうがなるのを心待ちにしていたのに、酸いぶどうができたのか。

《だれも答えない、沈黙》

さあ、今度はわたしがあなたがたに知らせよう。わたしが、わがぶどう畑に対してすることを。わたしはその垣を取り払い、荒れすたれるに任せ、その石垣を崩して、踏みつけられるままにする。わたしはこれを滅びるままにしておく。枝は下ろされず、草は刈られず、茨やおどろが生い茂る。わたしは雨雲に命じて、この上に雨を降らせないようにする。」

➤ 枝を下ろす=余分な枝を刈り込む、草を刈る=くわで除草する

7節【たとえ話の解説と結論】 → 8~25節の罪の指摘と裁きの預言につながる

万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家。ユダの人は、主が喜んで植えたもの。

主は公正を望まれた。しかし見よ、流血。正義を望まれた。しかし見よ、悲鳴。

イスラエル民族を「ぶどう畑」にたとえるのは、何を意味しているか？

旧約聖書の中で、イスラエル民族は、2つの用語でたとえられる。一つは、「ヤハウエ（主）の妻」（エゼキエル 16 章）である。そしてもう一つは、「ヤハウエ（主）のぶどう畑」（イザヤ 5 章ほか）である。ここでは、二つめのたとえ、イスラエル民族を「ぶどう畑」にたとえるのは、何を意味しているのかを、説明する。

- a. 詩篇 80：8～11 主がイスラエルをエジプトから引き出し、約束の地に植えた。士師の時代、そして王国となりダビデとソロモン前期までの時代を指す。

あなたは エジプトから ぶどうの木を引き抜き
異邦の民を追い出して それを植えられました。
その木のために あなたが地を整えられたので
それは深く根を張り 地の全面に広がりました。
山々もその影におおわれました。神の杉の木もその大枝に。
ぶどうの木はその枝を海にまで 若枝をあのかにまで伸ばしました。

- b. イザヤ 5：1～7 主はイスラエルを良きものとなるように育てたのに、酸いぶどうができてしまった。ソロモン後期以降の時代を指す。

- c. エレミヤ 2：21 主がぶどうの種を選び、主が植える場所を選んだのに、結果はよくない。

わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。

- d. エレミヤ 12：10～11 その責任は、イスラエルの指導者層にある。

多くの牧者が、わがぶどう畑を荒らし、わたしの地所を踏みつけて、
わたしの慕う地所を 恐怖の荒野にした。
それは恐怖と化し、荒れ果てて、わたしに向かって嘆き悲しんでいる。
全地は荒らされて、まことに、だれも心に留める者はいない。

この意味を引き継いだのが、マタイ 21：33～45

もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がいた。彼はぶどう園を造って

垣根を巡らし、その中に踏み場を掘り、見張りやぐらを建て、それを農夫たちに貸して旅に出た。収穫の 때가近づいたので、主人は自分の収穫を受け取ろうとして、農夫たちのところにしもべたちを遣わした。ところが、農夫たちはそのしもべたちを捕らえて、一人を打ちたたき、一人を殺し、一人を石打ちにした。・・・(中略)・・・祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのたとえを聞いたとき、自分たちについて話しておられることに気づいた。

- e. 詩篇 80 : 12~19 最終的にイスラエルは神の助けを求め、救われる。17 節の「あなたの右にいる人、人の子」とは、メシアなるイエスである。

なぜ あなたはその石垣を破り
道を行くすべての者が その実を摘み取るままにされるのですか。
林の猪はこれを食い荒らし 野に群がるものも これを食らっています。
万軍の神よ どうか帰って来てください。
天から目を注ぎ ご覧になってください。
このぶどうの木を顧みてください。
あなたの右の手が植えた苗と ご自分のために強くされた枝とを。
それは火で焼かれ 切り倒されています。
民は 御顔のとがめによって滅びています。
あなたの右にいる人の上に 御手が
ご自分のために強くされた**人の子**の上に 御手がありますように。
私たちはあなたから離れ去りません。私たちを生かしてください。
私たちはあなたの御名を呼び求めます。
万軍の神 主よ 私たちを元に戻し 御顔を照り輝かせてください。
そうすれば 私たちは救われます。

この意味を同様に預言するのは、イザヤ 27 : 2~6

「その日、麗しいぶどう畑について歌え。
わたし、主はそれを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも害を加えないように、夜も昼もこれを見守る。
わたしにもう憤りはない。もしも、茨とおどろがわたしと戦えば、わたしはそれを踏みつぶし、それをみな焼き払う。
あるいは、もしわたしという砦に頼りたければ、わたしと和を結ぶがよい。
和をわたしと結ぶがよい。時が来れば、ヤコブは根を張り、イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、世界の面（おもて）を実で満たす。」

B) 6つの「わざわい」罪と 4つの「それゆえ」裁き 5:8~25

1. 第一の「わざわい」罪 5:8~10

わざわいだ。家に家を重ね、畑に畑を隣り合わせる者たち。

あなたがたは場所を残さず、自分たちだけこの地に住もうとしている。

私の耳に万軍の主は告げられた。

「必ず、多くの家は荒れすたれ、大きな美しい家々も住む者がいなくなる。

10 ツェメドのぶどう畑が1 バテを産し、1 ホメルの種が1 エパを産するからだ。」

- 10 ツェメド=1 くびきの牛が10日かけて耕す面積、1 バテ=23リットル
- 1 ホメルの種が1 エパを産する=230リットルの種で、収穫は23リットル

2. 第二の「わざわい」罪 5:11~12

わざわいだ。朝早くから強い酒を追い求め、夜が更けるまで、ぶどう酒に身を委ねる者たち。彼らの酒宴には堅琴と琴、タンバリンと笛とぶどう酒がある。彼らは主のなさることに目を留めず、御手のわざを見もしない。

3. 第一の「それゆえ」裁き 5:13

それゆえ、私の民は知識がないために捕らえ移される。その貴族たちは飢えた者となり、その民衆は渴きで干からびる。

4. 第二の「それゆえ」裁き 5:14~17

それゆえ、よみは喉を広げ、果てしなく口を開ける。エルサレムの威光も、騒音も、どよめきも、そこでの歓声も、よみに落ち込む。こうして人間はかがめられ、人は低くされる。高ぶる者の目も低くされる。

しかし、万軍の主はさばきによって高くなり、聖なる神は正義によって、自ら聖なることを示される。

子牛は自分の牧場にいるように草を食べ、肥えた獣は廃墟にとどまって食をとる。

5. 第三の「わざわい」罪 5:18~19

わざわいだ。嘘を綱として咎を引き寄せる者。車の手綱するように、罪を引き寄せる者たち。彼らは言う。「彼のすることを早くさせよ。急がせよ。それを見てみたい。イスラエルの聖なる方のご計画が近づいて、成就すればよい。それを知りたい」と。

6. 第四の「わざわい」罪 5:20

わざわいだ。悪を善、善を悪と言う者たち。彼らは闇を光、光を闇とし、苦みを甘み、甘みを苦みとする。

7. 第五の「わざわい」罪 5:21

わざわいだ。自分を知恵ある者と思なし、自分を悟りのある者と思ひ込む者たち。

8. 第六の「わざわい」罪 5:22~23

わざわいだ。酒を飲むことにかけては勇士、強い酒を混ぜ合わせる事にかけては豪の者。彼らは賄賂のために、悪者を正しいと宣言し、その悪者から正しい者たちの正しさを遠ざける。

9. 第三の「それゆえ」裁き 5:24

それゆえ、火の舌が刈り株を焼き尽くし、枯れ草が炎の中に溶けゆくように、彼らの根は腐り、その花も、ちりのように舞い上がる。彼らが万軍の主のおしえをないがしろにし、イスラエルの聖なる方のことばを侮ったからだ。

10. 第四の「それゆえ」裁き 5:25

それゆえ、主の怒りはその民に向かって燃え、これに御手を伸ばして打つ。山々は震え、彼らの屍は、通りで、あくたのようになる。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

4つの「それゆえ」裁きの預言は、紀元70年に成就した。ローマ軍により、エルサレムと第二神殿が破壊された。

C) イスラエルが複数の国々の連合軍に侵略されるという預言 5：26～30

主は遠く離れた国に旗を揚げ、地の果てから来るように合図される。

すると見よ、それは急いで速やかに来る。

その中には、疲れる者も、つまずく者もない。

だれ一人、まどろまず、眠らず、その腰の帯は解かれず、履き物のひもは切れない。

その矢は研ぎ澄まされ、弓はみな張られ、馬のひづめは火打石のように、その車輪

はつむじ風のように見える。その吼え方は獅子のよう。若獅子のように吼え、うなり

り、獲物を捕らえる。奪って行くと、救い出せる者はいない。

その日、その民は海のとどろきのように、イスラエルにうなり声をあげる。

地を見やると、見よ、闇と苦しみ。光さえ雨雲の中で暗くなる。

- 遠く離れた国：原文では、「国」は複数形、国々である。
- 旗：ヘブル語でネス。ネスとは、旗、吹き流し、幟（のぼり）の類であるが、軍隊を召集するためのもの。遠くからもよく見える山の上に、長い旗さおを立て、その先に鮮やかな色の吹き流しタイプの旗をなびかせる。
- 主が国々の軍隊を召集し、イスラエルに向かわせる。これは、大患難期末期に
おけるハルマゲドンの戦いにおける反キリスト軍の召集である（詩 2：2、黙 16：12～16）
- この戦いのあとに続く出来事が、メシアの再臨とイスラエルの2回目の帰還。イザヤの預言では、11：10～12。
- 補足・・・イスラエルの帰還は、2回にわたる
 - 1回目は、不信仰の中での帰還（エゼキエル 20：33～36）。今、すでに起きている。
 - 1回目と2回目の間に、大患難期がある（エゼキエル 20：37～38「むちの下を通らせる」）
 - 大患難期の最後の3日間でイスラエルは民族的に救われて、信仰ある民となる。
 - 2回目は、大患難期の後、信仰をもって帰還する（イザヤ 11：11～12、11節の「再び」は、「2回目」の意味。イザヤ 27：13「大きな角笛が鳴り渡り」＝マタイ 24：31「大きなラッパの響きとともに」。エレミヤ 23：3～4。